

## 目次

序	近代・文学・ナショナル アイデンティティ.....	6
	第一節 問題意識.....	6
	第二節 研究動向.....	8
	第三節 目標と意義.....	10
第一部	漱石とナショナル・アイデンティティ.....	13
第一章	別れる理由 漱石のロンドンテキストが語るもの.....	13
第一節	数量化される他者.....	13
第二節	近代主義志向.....	15
第三節	創られるナショナル・アイデンティティ.....	17
第四節	欠如としての西洋.....	18
第二章	文明観と擬似植民地的恐怖.....	26
第一節	「活力」としての開化.....	26
第二節	「侵食」への恐怖.....	27
第三節	「敬服」への欲望.....	31
第四節	オリエンタリズムとナショナリズムの共謀.....	35
第三章	「西洋」のおみやげ 「現代日本の開化」と「私の個人主義」.....	38
第一節	強者主義と倫理.....	38
第二節	「自己本位」とコミュニケーション.....	42
第三節	国家主義容認と不平等の思想.....	44
第四節	西洋の自由・東洋の秩序.....	47
第五節	秩序とナショナリティ.....	49
第六節	国家と個人.....	52
第七節	「則天去私」の秩序.....	55
第四章	「東洋」への回帰 『草枕』.....	59
第一節	<反西洋>の言説.....	60
第二節	「温泉」の意味.....	64
第三節	文明批評の矛盾.....	66
第四節	「憐れ」と女.....	68

第五章	排除の欲望	『坊つちやん』	7 2
	第一節	「東京」という中心	7 2
	第二節	「廿五万石」の「都」	7 5
	第三節	侵犯への恐れ	7 8
	第四節	境界・根拠・流浪	7 9
	第五節	「清」の願望	8 1
	第六節	『坊つちやん』と日本人	8 2
第六章	アジアという他者	『満韓ところべ』	8 6
	第一節	二つの中国像	8 6
	第二節	南満州鉄道株式会社	8 8
	第三節	風景としての中国	9 1
	第四節	「文明」の容認	9 3
	第五節	漱石の植民地観	9 6
第七章	「インデペンデント」の陥穽		1 0 2
	第一節	模倣する<言葉>	1 0 3
	第二節	<開拓>の場所	1 0 8
	第三節	戦争・文明・帝国主義	1 1 0
第八章	跳躍と懷疑	『それから』	1 1 6
	第一節	闘うナルシシズム	1 1 6
	第二節	<男>の条件	1 1 7
	第三節	<父>の言葉	1 2 0
	第四節	「個」の誕生	1 2 3
	第五節	懷疑の行方	1 2 7
第九章	子供不在の意味	『門』	1 3 2
	第一節	宗助の挫折	1 3 2
	第二節	「近代家族」の失敗	1 3 5
	第三節	懷疑と断罪	1 3 7
	第四節	秩序志向の異性愛	1 4 0
第十章	漱石とショーペンハウアー		1 4 6
	第一節	過去の匂い	1 4 6

第二節	文体観ほか.....	1 4 8
第三節	愛と種族保存.....	1 5 2
第四節	利己心と偽り.....	1 5 6
第十一章	恐怖と不信 『行人』.....	1 6 1
第一節	女という他者.....	1 6 1
第二節	恐れと不信.....	1 6 4
第三節	教育と支配.....	1 6 6
第四節	「土人」の交わり.....	1 6 8
第十二章	『行人』と沼波武夫『始めて確信し得たる全實在』.....	1 7 1
第一節	沼波武夫への共感.....	1 7 1
第二節	マホメッド逸話ほか.....	1 7 2
第三節	「塵勞」執筆まで.....	1 7 7
第十三章	個人主義の破綻 『心』.....	1 8 2
第一節	「現代」批判としての「明治」.....	1 8 2
第二節	男性共同体の「精神」.....	1 8 3
第三節	「私」  新しい「命」への幻想.....	1 8 5
第四節	反生命主義・反西洋主義.....	1 8 7
第五節	様々な言説.....	1 8 9
第六節	文豪誕生.....	1 9 3
第二部	ナショナル・アイデンティティの諸問題.....	2 0 1
第十四章	<国医> 鷗外の選択 『舞姫』.....	2 0 1
第一節	エリスの条件.....	2 0 1
第二節	「趣味」と教育.....	2 0 3
第三節	男の仕事・女の愛.....	2 0 5
第四節	「故郷」という呪縛.....	2 0 8
第五節	「国医」鷗外.....	2 1 0
第十五章	柳宗悦と近代韓国の自己構築について.....	2 1 5
第一節	「愛」する主体.....	2 1 6

第二節	＜欠如＞の記号.....	2 1 8
第三節	「芸術」の政治学.....	2 2 0
第四節	「誇り」と支配.....	2 2 2
第五節	他者の影.....	2 2 5
第十六章	＜在日＞作家金鶴泳の沈黙.....	2 3 3
第一節	ナショナル・アイデンティティの強制.....	2 3 3
第二節	「沈黙」の暴力.....	2 3 8
第三節	＜在日＞という場所.....	2 4 2
第四節	存在の条件.....	2 4 5
第十七章	植民地末期韓国文学に見る「日本」のイメージ.....	2 5 1
第一節	秩序と規律.....	2 5 2
第二節	ナショナル・アイデンティティ習得の諸相.....	2 5 5
第三節	「個」の放棄.....	2 5 7
第四節	「全体」としての天皇.....	2 6 0
第五節	植民地の欲望とジェンダ .....	2 6 3
第十八章	ハイブリディティとしての近代	
	ワシントン・アーピング『スケッチブック』と日本近代文学.....	2 7 0
第一節	アーピングと明治の青年たち.....	2 7 0
第二節	教科書と『スケッチ・ブック』.....	2 7 3
第三節	「文章」から「文学」へ.....	2 7 6
第四節	スケッチ・写生・近代.....	2 8 0
第十九章	結びにかえて.....	2 8 4
第一節	漱石テキストの男たち.....	2 8 4
第二節	漱石の神話化と江藤淳.....	2 8 8
第三節	ナショナル・アイデンティティの諸問題.....	2 9 1
第四節	＜近代＞からの解放をめざして.....	2 9 5